

令和6年度 教育委員会事務局組織目標

組織名	教育委員会事務局	部長	教育次長 丸山 明生 教育次長 山本 正雄
組織の目的・方向性	「学力・体力に自信をもち、世界と共に生きる心豊かな子ども」と「生涯を通じて学び育つ、創造力と人間力あふれる新潟市民」という目指す姿の実現に向け、子どもたちの育ちと市民の生涯にわたる学びを支えます。そのために、学びを生かしたり、他者と協働したりしながら、課題解決や自己実現に向けて、様々なことに挑戦し続けるなど、「これからの社会をたくましく生き抜く力」を育て、主体的に物事を成し遂げることができる人材の育成に、学・社・民が一体となって取り組みます。		
(参考) 関連する総合計画における政策指標※	・将来の夢や目標を持っていると回答した児童生徒の割合 ・学習や生活において、自分で考え課題を解決したり、自分で判断して行動したと回答した児童生徒の割合 ・自分にはよいところがあると回答した児童生徒の割合 ・生涯学習活動で身に付けた知識や技能を、地域や学校、ボランティア活動に活かしている市民の割合 ・地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがあると回答した児童生徒の割合		

※政策指標…目指す都市像の実現や、総合指標の目標達成を図るうえで、各分野において特に重視する指標。各分野の政策指標は市役所全体で共有し、組織横断で目標達成に向けて取り組みます。

教育委員会事務局組織目標

教育委員会事務局では、新潟市総合計画 2030 および新潟市教育ビジョンに基づき、「これからの社会をたくましく生き抜く力」を育て、主体的に物事を成し遂げることができる人材の育成に、学・社・民が一体となって取り組みます。

この方針のもと、今年度も、次の5つの目標に重点的に取り組みます。

重点目標

- 1 将来にわたって地域への誇りと愛着をもち、社会的・職業的に自立し、集団や社会で様々な人とのかかわり、自分の役割を果たしながら自分らしく生きる資質・能力を育みます。
- 2 共生社会の実現を目指すインクルーシブ教育システムの構築に向けて、就学時から社会参加まで切れ目ない支援を充実し、一人一人のニーズと課題に対応した特別支援教育を推進します。
- 3 教職員が生き生きと子どもたちと向き合うため、学校と保護者・地域が一体となった働き方改革を推進することにより、働きやすい職場づくりを目指すとともに、心身の健康の保持増進へのきめ細かな支援を充実させます。さらには、子どもの学びをしっかりと把握していくための学習環境の改善を図ります。
- 4 地域課題学習を通して地域活動を担う人材を育成し、地域が抱える課題の解決を支援するなど、学習成果を人づくりや地域づくりに生かす循環型生涯学習を推進します。
- 5 「地域とともにある学校」を目指し、学校と地域が共通の目標をもって、学校と社会教育施設、家庭、地域をつなぐネットワークづくりをさらに進め、子どもの豊かな成長を支える協働事業を一層推進します。

※重点目標における指標や取組状況は、各課組織目標をご覧ください。

評価

	重点目標の達成状況	目標数	5	達成数	3
取組結果	○特別支援教育に関しては、巡回通級指導教室の12校での開始や、特別支援教育フォーラムの参加人数の大幅増など、目標を大きく上回る結果となり、こどもや保護者の負担軽減のみならず、市民への啓発、理解促進を大きく進めることができました。 ○「地域とともにある学校」を目指す協働事業については、コミュニティ・スクール制度が機能していると回答した学校運営協議会の割合が目標を大きく超える結果となるなど、保護者、地域、学校が一体となって、こどもを取り巻く課題などについて、議論を重ねることができました。 ○一方で、「将来の夢や目標をもっていますか」で肯定的に回答した児童生徒の割合は目標を下回るなど、将来にわたって地域への誇りと愛着をもち、自分の役割を果たしながら自分らしく生きる資質・能力を育む目標については達成できないものもありました。				
今後の方向性	令和7年3月に策定した「新潟市教育振興基本計画～にいがた学びのコンパス～」において、「生まれてから一生涯を見通した幅広い視点で新潟市民の生活が心身ともに豊かになる教育」「誰一人取り残さない、一人一人の可能性を引き出す教育」をコンセプトに、本市の教育が目指す人間像を「しなやかに 世界と未来を創る人」と設定しました。 教育委員会事務局では、その人間像の実現に向けて、市長部局と連携しながら取り組んでいきます。				